

1 研究主題

自ら考え、学び合う円山っ子の育成
—対話によって思いや考えを広げ深める授業づくり—

2 研究主題設定の理由

(1) 児童の実態と去年の取組より

昨年度は、コロナ禍で制限がある中、主体的で対話的な深い学びに向け、児童が自分の考えをもち、伝え合い、高め合うことができる場を工夫して設定してきた。児童は、自分の考えをもつことに前向きに取り組み、生き生きと自分の考えを伝え合っていた。その児童の姿から、自分の考えを伝えること、それが認められること、そして自分とは異なる視点に出会い、根拠を聞き、比較し、もう一度自分の思いや考えを確かめることに、学ぶ楽しさと学びに向かう前向きな気持ちが感じられた。何が分かったのか、何ができるようになったのか、どのように考えたのか、どの児童も自分の言葉で伝え合いたいのである。このような仲間との対話による学びは、今後社会で生きていく上でのコミュニケーション能力、主体的に課題に立ち向かう姿勢、多様な考えを受け入れる柔軟さといった生きる力の基となると考える。

そこで、今年度は、副主題を「対話によって思いや考えを広げ深める授業づくり」と設定し、より児童の考えの広がりや深まりを意識して授業づくりに取り組んでいく。児童は人やもの、自分の心との対話によって、自分もっていた考えが揺さぶられ、思考し、自分なりの根拠をもって、考えを再構築できる。そのような対話を軸として児童の思いや考えを広げ深めることができる授業づくりに取り組んでいく。さらに、児童が考えの変容を実感することができるようにし、学びを確かなものにしていきたい。

道徳科を中心とした道徳教育の推進を図り、自分の思いや考えが認められる温かい学級づくりに努め、学びを支えていく。さらに、コロナ禍で制限はあるが学年交流や縦割り活動を工夫し、児童の対話の機会を広げ、学んだことを児童自身が生かしていくようにする。授業づくり・つながりづくり・心づくりの面から、児童の学びを支え、確かなものにし、本校の研究主題である「自ら考え、学び合う円山っ子の育成」に迫りたい。

(2) 授業改善に向けて

一人一台のタブレット導入を受け、本年度は、授業でのタブレット活用を積極的に図っていく。タブレットを対話や一人学びの深まりのために効果的に活用していきたい。また、日頃から単元構想や授業の組み立て、児童の振り返りの生かし方などを学年間で話し合い、授業づくりに生かすように努めていく。

3 研究仮説

人やもの、自分の心との対話を軸として、考えが揺さぶられ、思考し、再構築できる児童の思いや考えを広げ深める授業づくりを行うことで、自ら考え、学び合う円山っ子の育成に迫ることができる。

4 研究内容

(1) 研究主題の捉え方

目指す「自ら考え、学び合う円山っ子」の姿とは

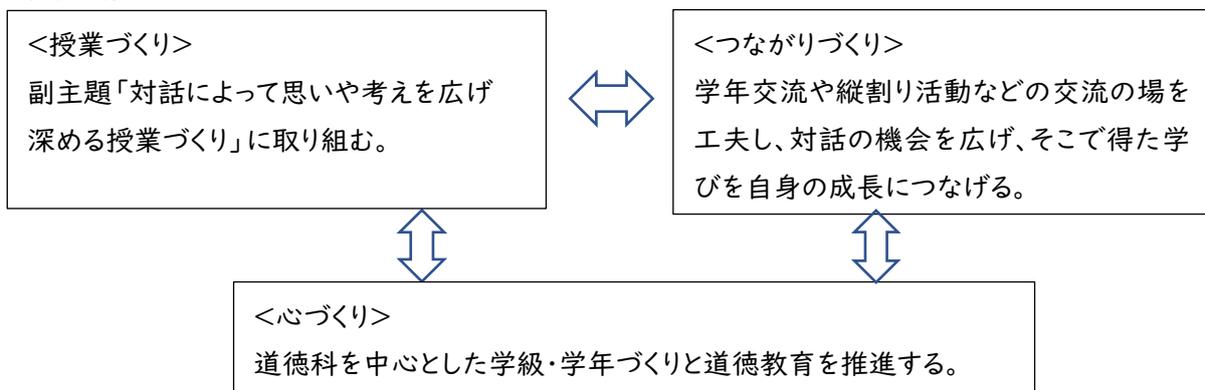
「自ら考える子の姿」

- ・学ぶことに興味や関心をもっている。
- ・見通しをもって粘り強く取り組んでいる。
- ・自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげている。

「学び合う子の姿」

- ・児童が互いの言葉を受け止め合い、対話をしながら、新たな考え方に気付いたり、問いをもったり、深い理解につなげたりしている。

(2) 研究の構成



(3) 研究副主題について

昨年度は、主に対話の設定や運び方に視点を合わせ授業づくりに取り組んだ。今年度は、対話によって思いや考えを深めていくために以下の3つの視点で授業づくりに取り組んでいく。

視点①対話が生きる課題設定

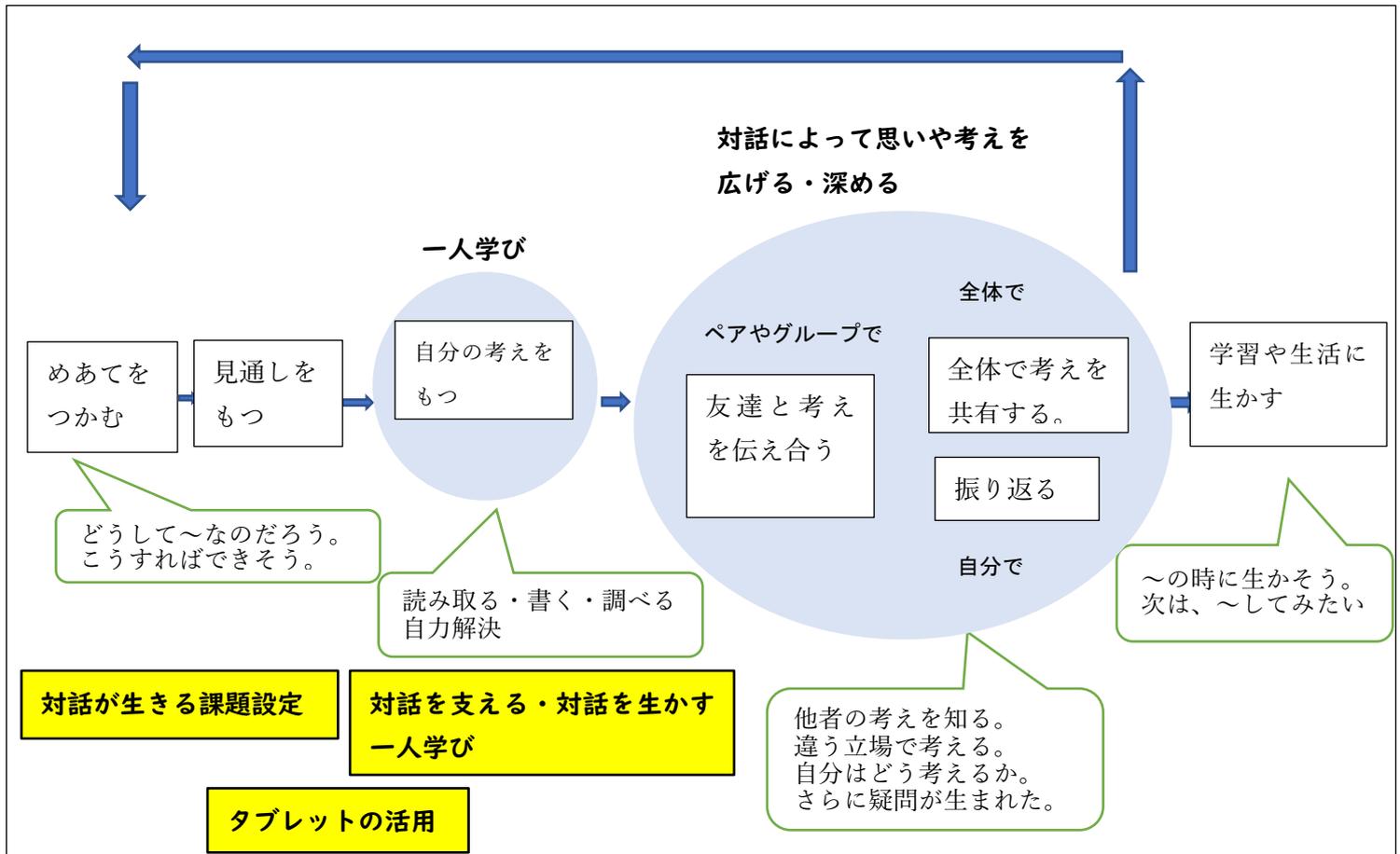
学び合いの学習に発展させるには、対話に必然性があり、また、児童が既習事項や経験を生かして切実に解決したいという思いが重要である。児童が対話を軸として多様な意見に触れ、気付きを全体場で共有したり個々で振り返ったりすることで考えを再構築できる。そのような学び合いや対話の深まりがある課題設定を行う。また、課題設定の際は、単元や授業を通して児童に身に付けさせたい力を明確にする。児童が、何が分かり、何ができるようになったのか、もっと知りたいことは何かなど、自分と対話することで学びの振り返りができるようにする。

視点②対話を支える・対話を生かす一人学び

主体的に課題を解決したり、自分の考えを明確にしたりするには、個々の読むこと・書くことといった自力解決の力を高めることが必要である。それは、授業を含めた日々の学習全般において培うことができる。自分の考えをもつための授業における一人学びの工夫、個々の基礎的な学びの力を高めるための一人学びの工夫など、各学年において重点的取組を考え実施していく。また、自分なりの根拠をもって考えを再思考できるようにし、考えの広がりや深まりを学びに生かすことができるようにする。

視点③タブレットの活用

タブレットの活用を視野に入れ、単元構成や授業の組み立てを考える。自分の考えをもつための活用、友達の考えを知り、自分の考えを深めていくための活用など授業での活用場面を想定し、タブレットを活用することの意義を吟味しながら活用促進を図る。



5 研究方法

(1) 授業づくり

- ・研究主題に迫る目指す児童の学びの姿を学年で設定する。視点①～③における具体的な指導・支援の在り方(～することで～できるようにする。)を考えて「学年の取組」にまとめ、実践する。
- ・学年一本授業を行い、単元構成や授業のねらい、組み立てなど、プレ授業などを通して十分に練り合う。学年一本授業は、その単元のどこかで児童のタブレット活用を取り入れ、指導案に明記する。事後検討会を開く。
- ・毎週金曜日の終礼前に、タブレットの活用方法や実践紹介などの「タブレット講習」を行う。

(2) 心づくり

- ・道徳教育全体計画をもとに、各学年の重点目標を決め、「学年の取組」にまとめ、実践する。
- ・道徳的価値理解をめざした対話を生かした授業づくりに取り組む。
- ・道徳の一斉授業・・・11月の教育ウィークに学年で授業を練り合い実施する。

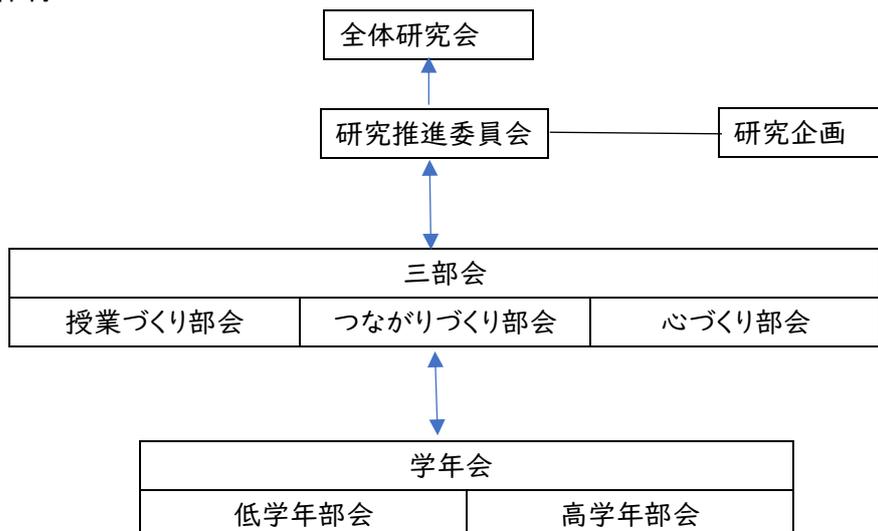
(3) つながりづくり

- ・学年交流や縦割り活動などの交流の場を生かして、対話の機会を広げ、そこで得た学びを自身の成長につなげる。

6 研究の検証

授業づくり部会・心づくり部会ともに、夏休み・後期指導主事訪問時に、活動の途中経過をまとめ、年度末には、成果と課題をまとめる。児童の変容を捉えるために児童の振り返りを活用し、研究の達成状況を見る。つながりづくり部会は、活動・行事ごとに児童の振り返りを取り、次の実践に生かす。

7 研究体制



<研究企画>…学校長、教頭、教務主任、研究主任

<研究推進委員会>研究主任・授業づくり部会副、つながりづくり・心づくり部会長・副

8 研究授業計画

指導主事訪問日	提案授業者	一般授業	研究会	事前検討会
前期	無し	2、4、6年 無担	全員	無し
後期	4年 国語	1、3、5年、 4・5・6組	全員	高学年部会

学年一本授業月	提案授業者
6月	6年
9月	1年
9月	5年
10月	2年
10月	3年
11月	4567組

9 研究過程

期日	部会など	内容
4月 9日(金)	全体会	学びのルールについての確認
4月19日(月)	全体会	本年度の研究の方向性
4月23日(金)	タブレット講習	クラスルームの設定の仕方
4月30日(金)	タブレット講習	画面の時間設定の仕方
5月14日(金)	タブレット講習	学びポケットの設定の仕方
5月21日(金)	三部会報告	本年度の各学年の取組・縦割り活動の在り方について
5月 第4週	各学年	「授業づくり自己チェック週間」として授業改善に取り組む。

5月28日(金)	タブレット講習	キーノートの使い方
6月4日(金)	タブレット講習	エアドロップを用いての写真の送信の仕方
6月11日(金)	学年一本授業	6年1組授業 国語科 「筆者の主張や意図をとらえ自分の考えを発表しよう」
6月18(金)	現職教育	学年一本授業(6年)で活用したタブレット資料の作り方
6月25日(金)	タブレット講習	まなびポケットの活用
6月 第4週	各学年	「授業づくり自己チェック週間」として授業改善に取り組む。
6月29日(火)		前期指導主事訪問
7月7日(水)	三部会	5月・6月の取組について振り返り

今後の予定

- ・夏期休業中における各研究会参加報告
- ・全国学力診断テスト分析
- ・10月27日(水)指導主事訪問
学年の取組振り返り2回目
- ・1月…本年度の研究の成果と課題について振り返り
次年度に向けて

10 「引き出す・楽しむ教育」推進の取組について

本年度は「振り返りを活用した縦割り活動」について、つながりづくり部会を中心に重点的に取り組む。昨年度から全校で取り組んできた「めあてをもって縦割り活動に参加する」ことに加え、本年度は、振り返りを書き、縦割り活動を通して思ったことを次の活動に生かしていくようにする。

めあてを書くワークシートを全校でそろえ、自分のめあてと振り返りが一覧できるようにする。6年生が縦割り班の児童の振り返りを生かして次時の活動を決めたり、ペア学年で振り返りに対するコメントを書いて交流を深めたりするなど、振り返りを活用して自己との対話、他者との対話の機会を広げ、主体性を育てていきたい。

11 6月11日 6年1組 学年一本授業より

～国語科 筆者の主張や意図をとらえ自分の考えを発表しよう「笑うから楽しい」～



タブレットを活用し真剣に資料を読み込む児童たち。

気付いたことの伝え合い。



熱心に語り合う事後研究会

学校教育目標

生命を尊び、自主と創造にみちた人間性豊かな児童の育成

たくましい子 考える子 働く子 思いやりのある子

【学年目標】

1年	2年	3年	4年	5年	6年	4・5・6組
なかよく とりくもう	力を合わせて やりぬこう	自分で考え みんなにつた えよう	思いを表現し みんな 認め合おう	認め合い ともに 伸びよう	認め合い ともに 高め合おう	素直な心 ありがとうの心で がんばろう

研究主題

自ら考え、学び合う円山っ子の育成
対話によって思いや考えを広げ深める授業づくり

自ら考える姿

- ・学ぶことに興味や関心をもっている。
- ・見通しをもって粘り強く取り組んでいる。
- ・自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげている。

学び合う姿

- ・児童が互いに言葉を受けとめ合い、対話を通して広く豊かな思いをもつ。
- ・対話やこれまでに得た知識を生かして考えを巡らし、新たに気付いたり、問いをもったり、解決策を考えたり、知識を相互に関連付けてより深く理解したりしている。

思いを広げ、考えを深める姿

研究仮説

人やもの、自分の心との対話を軸として、考えが揺さぶられ、思考し、再構築できる児童の思いや考えを広げ深める授業づくりを行うことで、自ら考え、学び合う円山っ子の育成に迫ることができる。

<授業づくり>

副主題「対話によって思いや考えを広げ深める授業づくり」に取り組む。

<つながりづくり>

学年交流や縦割り活動などの交流の場を生かし、対話の機会を広げ、そこで得た学びを自身の成長につなげる。

<心づくり>

道徳科を中心とした学級・学年づくりと道徳教育を推進する。

授業づくり部会 各学年の取組より

	①対話が生きる課題設定	②対話を支える、対話を生かす 一人学びの工夫	③タブレットの活用
描く児童の姿 一年	<ul style="list-style-type: none"> ・やってみたい、がんばればできそう 思いを伝えてみたいなど児童なり のためあてや見通しをもって、最後まで 進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとできるようになりたいという気 持ちは大事にして、読む、書く、計算 するなどの練習を進めることができ る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が使っているのを見て、使う場 面を知ったり、興味をもったりする。 ・教師のタブレットを使って、教えても らいながら操作をしてみる。(QR コ ードを読み取る、見せたいところを 拡大するなど)
学年の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動とつなげることで、表現し たいという思いを高める。 ・ペアやグループで、教え合い、学び 合いができる活動を設定する。 ・絵や写真、実物などを使い、伝えたい ことがよく分かるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視写や音読、計算練習では、児童 に分かるような目標を伝える。 ・1週間に1回は学級で図書室へ行 き、日常的に本に親しむ。 ・音読を聞き合ったり、書いたものを 見合ったりすることで、意欲を高め る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を拡大(注目させたいとこ ろ、児童が挙げたところ)して提示 する。 ・カメラ機能で児童の様子や作品を 記録し、提示資料として使う。 ・インターネットで調べたことを提示 する。 ・インターネット配信される視聴覚資 料を見せる。
描く児童の姿 二年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の内容を正しく捉えている。 ・学習の見通しをもつことができている。 ・課題に対して意欲的に取り組んで いる。 ・相手の考えを理解したり、相手に伝 わるように話したりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に読む・書く・調べるなどの 自分に合った学習をしようとしてい る。 ・自主学习に取り組んでいる。 ・自力解決しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使用する際のルールを 覚えている。 ・ルールを守りながら使用している。 ・機器を大切に扱っている。
学年の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学習の中で、自分ごととして 取り組めるようなめあてを設定し て、学習に向かわせる。 ・課題をスモールステップにし、見通 しをもたせられるようにする。 ・授業の流れを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人学びの目的を伝える。 ・一人ひとりに合った学びができるよ うに、読む・書く・調べるなどの学習 を選択できるようにする。 ・自学ノートを用意する。 ・一人学びに少しずつ慣れるよう、学 習の中で時間の確保をする。 ・一人学びの内容を、児童同士で紹介 し合える場を設定する。 ・自力解決できるよう、解決への手段 を示す。 ・丁寧な言葉遣いの話型を示し、児 童が用いたり親しんだりできるよう にする。 ・聞き手を意識させたり、ペアやグル ープなど人数の調整をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する際のルールを決め、掲示す る。 ・確認のために、掲示してあるルール を唱和させる。

<p>描く児童の姿 三年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を生かしながら考えようとする。 ・一人一人が疑問をもって学びに向かうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもち、課題に主体的に取り組むことができる。 ・根拠をもって自分の考えを言葉で表現できる。 ・基礎基本を定着させる学習に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用に関心をもつ。 ・タブレットを適切に使用する。 ・タブレットを使って調べることができる。
<p>学年の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ」という疑問につながる問いの提示を行う。 ・写真や具体物を用い、児童の興味関心を高める。 ・児童一人一人の疑問を教師が整理し、全体で共有する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、一人で考える時間を設け、自分の考えを書く機会を与える。そのために、ノートやワークシートは考えを書くことができる構成にする。 ・「どうしてか」という話型を用いて、根拠を示させる。 ・対話を通して、自分の考えの変容を振り返りとして書かせる。 ・自主学習において、関心のある分野や、反復が必要と自分が感じた分野に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語のローマ字学習と絡め、ローマ字を入力したり読んだりできるようにする。 ・写真を撮ったり、QRコードを読み取ったり、動画を見たりして、使う頻度を増やす。 ・情報モラル教育を行う。 ・総合での調べ学習が円滑にできるように、教師が事前にサイトを調べたり動画を見たりする。
<p>描く児童の姿 四年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・解決したい問いをもっている。 ・友だちの考えを知りたいという思いをもっている。 ・既習事項と結び付けて考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何をしたらよいか理解し、進んで課題に取り組んでいる。 ・考えの根拠を見つけている。 ・友達の考えを聞いて、もう一度考え、考えを整理したり気付いたことを付け足したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字入力がすらすらとできる。 ・キーボードの操作を一人でできる。 ・ファイルを作り、資料を整理して保存ができる。
<p>学年の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、単元の学習問題と解決したい問いを掲示し、単元を通して何を学ぶのか明確にする。 ・児童の気付きを生む導入を基に、その気付きを生かし、「なぜ」「どうするとよいか」といった問いを共有できるようにする。 ・共有した問いを全員がしっかりと把握し、見通しをもって課題解決に図るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週末は自主学習に取り組ませる。どの点がよいか、視点を添えて自主学習を掲示する。 ・国語では、根拠となる部分に線を引いてから考えを書かせる。算数や理科、社会では図や言葉で説明する活動を設定し、その際に生まれる個々の困り感や問いを対話で解決できるようにする。 ・学習のまとめの際は、分かったことをペアで説明し合ったり、事象を言葉で説明したりして、知識理解を確かなものにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期を見通して、年間指導計画や教科書を基に、タブレット活用ができる場面を探す。 ・すぐに使えるローマ字表やキーボード操作表を作り、個々で活用する。 ・教科以外でも朝の会のスピーチや総合の調べ学習・発表の資料づくりなどで、活用できるようにする。

<p>描く児童の姿</p> <p>五年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ごととして捉え、考える。 ・意欲をもって、課題解決に取り組もうとする。 ・自分なりの考えをもち、友達と伝え合おうとする。 ・学習を通して分かったことやできるようになったことを自分の言葉で振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験を生かして考え、自分なりの考えをもつ。 ・話の中心を考えながら話したり聞いたりし、自分の考えと比べている。 ・興味・関心のあることに関して自主的に学習を進めたり、学習内容の関連を考えて予習・復習したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字入力が速くできるようになり、タブレットを使って調べ学習や学習(復習)等をする。 ・写真を撮ったり観察記録を取ったりして、学習に生かす。 ・考えを可視化し、分かりやすく伝え合う。
<p>学年の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のつながりや、前時との関わり等を考えた課題づくりを工夫する。 ・児童の疑問やつぶやき等を生かして、解決したくなるような課題づくりを工夫する。 ・単元を通して付けたい力や目指す姿を明確に示す。 ・自分の考えとの共通点や相違点を考えながら聞かせ、どの部分であるかを詳しく伝えさせる。 ・学習した言葉を使わせたり、学習した内容を具体的に示させたりしながら、次への意欲付けとなるような振り返りをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、既習内容を提示し、自力解決に向けて支援する。 ・図や表、言葉等を用いてじっくり考え、根拠を伴った自分の考えをもつための時間や再構築の時間を確保する。 ・聞き方・話し方の話形を示し、学校生活全般を通して意識させていく。 ・学習の定着や深化、広がり等を目指して、自主学習を推奨していく。 ・学習の内容や進め方について随時紹介・提示していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字表を身近において活用させる。 ・図工や理科などの学習で、積極的にカメラ機能等を使わせる。 ・総合的な学習を始め、社会科や理科等でインターネットを使って調べさせたり、学びサイトで復習させたりする。 ・考えの根拠となるものを写真に写して提示させたり、図解させたりしながら、詳しく伝え合わせる。 ・新聞記事を題材にして対話する時間を設け、記事や原稿を分かりやすく提示させる。
<p>描く児童の姿</p> <p>六年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもち、課題の実現に向けて、粘り強く取り組むことができる。 ・学んだことを振り返り、身に付いた力を実感し、次の学習に向けて意欲をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例やモデルを生かして、自分の考えを明確にもつことができる。 ・対話を通して、自分の考えを再構築したりするなどして、学びを深めることができる。 ・学んだことを整理して、ノートや成果物に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が提示した資料をもとに、考えをもったり深めたりしている。 ・必要なことをインターネットで検索し、調べることができる。 ・調べたことをもとに、文章を入力したり、画像を挿入したりするなどして、発表資料を作成することができる。
<p>学年の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対話の必然性を生み出すために、児童が追究したくなる魅力的な課題を検討する。 ・学習の見通しをもたせるために、単元や各授業のはじめには、身につけさせたい力を明確に示す。 ・学びを確実に積み上げ、次時の学習へとつなげるために、めあてに沿って、振り返りやまとめをさせ、成果の共有化を図る。 ・学習したことを振り返りやすくするために、図や記号を用いたり、色づかいを工夫したりするなど、構造的な板書をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の見通しをもたせるために、活動の前には、例やモデルを示したり、優れている児童を取り上げて紹介したりする。 ・考えをもちやすくするために、考えを選択させる課題(Which型課題)を設定し、考える時間を十分に確保する。 ・話し合い活動を充実させるために、名前マグネット等を活用し、自分の立場を明確に示させる。 ・学びを深めるために、意図をもって対話の場を設定し、自分の考えを友達の考えと比べて、考えを再構築させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の論点を焦点化するために、課題や資料、児童のノートなどをモニターに拡大提示する。 ・児童の思いを生かし、学びを広げるために、教科書や資料集に載っていないことは、検索キーワードを明確にして検索させる。 ・ローマ字入力がスムーズにできるようにするために、外国語のアルファベット指導と関連させたり、隙間時間にタイピング練習をさせたりする。 ・タブレットの操作を習熟させるために、初期段階では、1つ1つ丁寧に作業の仕方を教え、経験を踏まえながら、徐々に個々の裁量を増やしていく。

<p>描く児童の姿 4 5 6 7 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に対しての見通しをもち、意欲を持って取り組んでいる。 ・思いついたことを、自分なりに表現することができる。 ・いろいろな考えや意見があることを知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題や、朝の読書タイム、チャレンジタイムを一人で進めることができる。 ・自分で読む、書く、計算するなどの学習を進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のタブレットをみて、同様に操作して楽しみながら進める。
<p>学年の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士の対話が必要な活動を設定する。 ・児童の興味関心に沿った活動を選ぶ。 ・児童の思いや考えを引き出し、思いを言葉に表現する手助けをする。 ・絵や視覚ツール等を使って、児童の考えを分かりやすくまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動や生活単元の授業で自分なりの目標(課題)を設定してその完成に向けて一人で工夫しながら進めていくことができる。 ・課題を分かりやすく一覧にして提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の作品や様子などの記録をする。 ・インターネットを使用して資料を検索する。 ・インターネットで動画などの視聴覚資料をみる。

授業づくり自己チェックシート



*自分で・学年で活用し、授業改善に努めていきましょう！

円山小学校 授業づくり部会

「自ら考える子の姿」

- ・学ぶことに興味や関心をもっている。
- ・見通しをもって粘り強く取り組んでいる。
- ・自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげている。

「学び合う子の姿」

- ・互いに言葉を受け止め合い、人・もの・自分の心との対話によって新しい視点に出会い、気付いたり、問いをもったり、深い理解につなげたりして、考えを再構築している。

		主題「自ら考え、学び合う円山っ子の育成」 副主題「対話によって思いや考えを広げ深める授業づくり」		
	授業づくりの 視点	研究との関連	自己 チェック	
対話 が 生 き る 課 題 設 定	①課題づくり	・単元を貫く学習問題を設定し、単元の見通しをもたせている。		
		・困り感を共有したり、問いをもたせたり、予想を立てさせたりするなどして、切実に解決したいという思いをもたせている。		
		・本時で何を分からせ、何をできるようにさせるのか、ゴールを明確にしている。		
		・ICTなどで資料提示の仕方を工夫し、課題解決への意欲を高めている。		
対話 を 生 か す 一 人 学 び	②見通しのもたせ方	・課題解決に向けて授業の流れや一人学びの目的などを伝え、学習の見通しをもたせている。		
	③対話の有効性	・ねらいを明確にして、児童が必要と感じる対話を設定している。		
		・対話によって学びが深まる場面を想定し、対話の仕方、対話後の児童の思考の整理の仕方などを明確にしている。		
対話 を 支 え る 一 人 学 び	④めあてに沿った振り返り	・何がわかり、何ができるようになったのか、もっと調べたいことは何かなど、自分と対話することで学びを振り返ることができるようにしている。		
		⑤自分の考えをもつ		・視点を明確にして、資料の読み取りや調べ活動などに取り組ませている。
				・自分の考えの表し方を伝え、時間を確保している。
タ ブ レ ッ ト 活 用	⑥対話の活用	・比較したり質問したりして多面的・多角的に考えを広げたり深めたりするための手立て（聞き方や話し方、話題のつなげ方などの児童のスキル）、（児童の考えを広げるための教師のスキル）などの工夫がある。		
		・自分なりの根拠をもって考えを再構築する場を確保している。		
	⑦タブレットの活用	・自分の考えをもったり、深めたりするために児童がタブレットを活用する場面を取り入れる。 ・授業でタブレットを効果的に活用している。 ・児童の実態に合わせ、タブレットの使い方を工夫している。		